

「千代田区ふるさと検定」の活用による大学・地域間の交流推進

家政学部児童学科 本澤 淳子 本澤ゼミ

研究経過及び本年度の位相

本研究は「小学生及び区民を対象にした千代田区地域素材の教材化に関する実践的研究」の6年目にあたる。

◆2016～2018年度

「千代田区子ども検定の作成・冊子及びWebによる発信。
(2019年「千代田区ふるさと検定」と改称。)



◆2019年度

「千代田区ふるさと検定」の発展として、「千代田区ふるさとカルタ」及びデジタルストーリーテリング「ちよさんぽ」を作成・発信。



◆2020～2021年度(本年度)

GPSクイズラリーを作成、実施。「千代田区ふるさとカルタ大会」の実施。日めくりカレンダーの作成、活用。

研究実践の目的

「千代田区ふるさと検定」とリンクした体験型の検定としてGPSクイズラリーを作成及び大会の実施、カルタ大会の実施等を通して、千代田区ならではの魅力を発信する機会とし、大学と地域間の交流推進を図る。

研究実践についての考察

◇郷土検定は、多くの自治体や団体から発信されているが、しばらくすると枯渇していく状況が目立つ。これは発信後の利活用について積極的な計画運営がなされていない場合に多く見られ、郷土意識の向上を図る上では発信後の交流等が不可欠である。こうした考えに基づき、本研究において作成した「千代田区ふるさと検定」発信後の利活用のあり方について検討し、実践化することができた。今後も交流活動の内容、発信の方法を検討し、「ふるさと千代田」への意識の醸成を図る機会をさらに充実させていく。

◇新型コロナの影響により、地域交流活動にも厳しい制約が求められたが、Webカルタ大会のように実施可能な方法を探る機会として、地域交流活動のあり方をより豊かに見直すことにもなった。これを、地域との連携をさまざまな方法で広げていく契機とし、次年度以降はオンラインでの地域交流活動について活性化を図っていきようにしたい。

本年度の研究内容・結果

(1) GPSクイズラリー大会の企画・運営

千代田区活動団体chee's、株式会社コギトとの連携により作成した日比谷公園のクイズラリーを実施。地域住民から好評を得た。



*画像を押すと拡大できます

50 首かけイチョウ

「首かけイチョウ」はある博士の言葉からつけた呼び名です。その博士の名前は何でしょう？

(2) カルタ大会の企画・運営

「千代田区ふるさとカルタ」を用いて学童クラブにおけるカルタ大会を実施。新型コロナの感染状況によっては、Web上でも実施可能との見通しを得た。



(3) 日めくりカレンダーの活用

昨年度作成した日めくりカレンダー「まいにち千代田区」を増刷し、広報活動に活用した。新型コロナの影響により中止となる活動も多かったが、この日めくりカレンダーによって「千代田区ふるさと検定」や「千代田区ふるさとカルタ」に親しんでいただく機会とすることができた。



日比谷公園におけるGPSクイズラリー